



株式会社SCC
Software Consultant Corporation

中期DX戦略

2023年4月1日

株式会社エスシーシー

CONTENTS

Our Business

- 01 SCCを取り巻く環境と目指す姿
- 02 価値創造モデル

SCC Digital Transformation

- 03 中期DX戦略
- 04 推進状況の管理と発信

- Our Business -

価値創造モデルと中期的重点課題

SCCの役割



代表取締役社長
春日 邦彦

はじめに

株式会社エスシーシー(以降、「SCC」と記す。)は、1975年の創業以来、ソフトウェアコンサルタントとして金融、運輸、セキュリティ等、多岐にわたる分野のシステム開発を行い、システムを導入するお客さま、そしてその先のシステムを使うお客さまの課題を解決することで、日本の高度情報社会化に貢献してまいりました。

社会が抱える課題と、SCCの役割

近年、急速に進歩したデジタル技術によって、ビジネスが加速し、さらには業界・業種の垣根を超えた価値創造によるイノベーション(デジタル・トランスフォーメーション)が至る所で実現されています。ITは、これまでの課題解決という枠を超えて、新たな価値を創造することに欠かせない、変革のカギとなっています。

その一方で、日本は少子高齢化による労働力人口の減少、社会インフラの老朽化といった課題に直面しており、DXによる生産性の向上、

サービスの高度化による競争力の強化はこれからの日本の発展に不可欠な要素となっています。

このようなデジタル技術活用の潮流に対して、SCCはこれまで以上の高度・多様な要求に「期待を超えるものづくり」を実現し、さらには、まだ見ぬお客さまや社会に対して、これまでになかった「創造価値の提供」を実現することで、社会を高度情報社会の先にある、未来社会に導きます。

SCCの「夢」と「志」

夢

Dream

お客様の期待を超えるものづくりと創造価値の提供で、情報社会の先にある、
豊かな未来社会を切り拓く。

Purpose

志

私たちは、ITでお客様に感動を届けたい。
私たちは、経験と技術、創造価値で社会を未来に導きたい。
私たちは、お客様、社会、社員を幸せにしたい。

< SCCコーポレートサイトより抜粋 >
<https://www.scc-kk.co.jp/philosophy/>

社会の状況遷移、抱える大きな課題、そして未来社会への貢献を踏まえて、
これからSCCが目指す先を「夢」、大切にしたい想いを「志」という言葉で
定義しています。

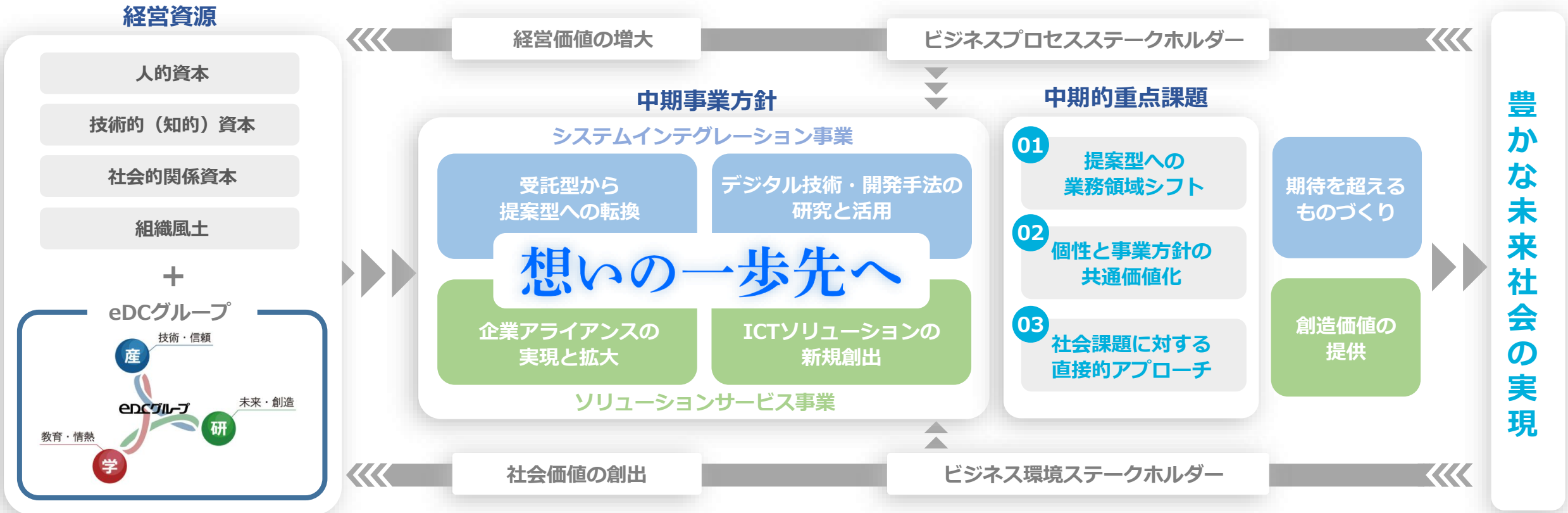
2023年度よりSCCは、「夢」と「志」のもと全社一丸となって、
社会のニーズや課題、ひいては豊かな未来社会の実現に貢献してまいります。

株式会社エスシーシー
代表取締役社長

春日 邦彦

「夢」「志」の達成に向けた価値創造モデル

夢・志



eDC-DNA : **Quality First**

「夢」「志」の達成に向けた価値創造モデル（経営資源・ステークホルダー）

経営資源

夢・志

ビジネスプロセスステークホルダー

- ・ 開発品質/スピード/開発量の向上
- ・ 企業間でのより強固な協働/協創体制
- ・ より高度な特定(専門的)技術の要求

中期事業方針

中期的重点課題

- 01 提案型への業務領域シフト
- 02 個性と事業方針の共通価値化
- 03 社会課題に対する直接的アプローチ

期待を超えるものづくり

創造価値の提供

豊かな未来社会の実現

- 人的資本
- 技術的(知的)資本
- 社会的関係資本
- 組織風土

- ◆ 約800名の従業員内、9割以上が新卒採用
- ◆ 社会インフラを支える長年の開発実績と知識技術研究・開発
- ◆ お客さまとの長期的なお付き合いによる顧客ロイヤリティ
- ◆ Quality Firstによる誠実・堅実な姿勢

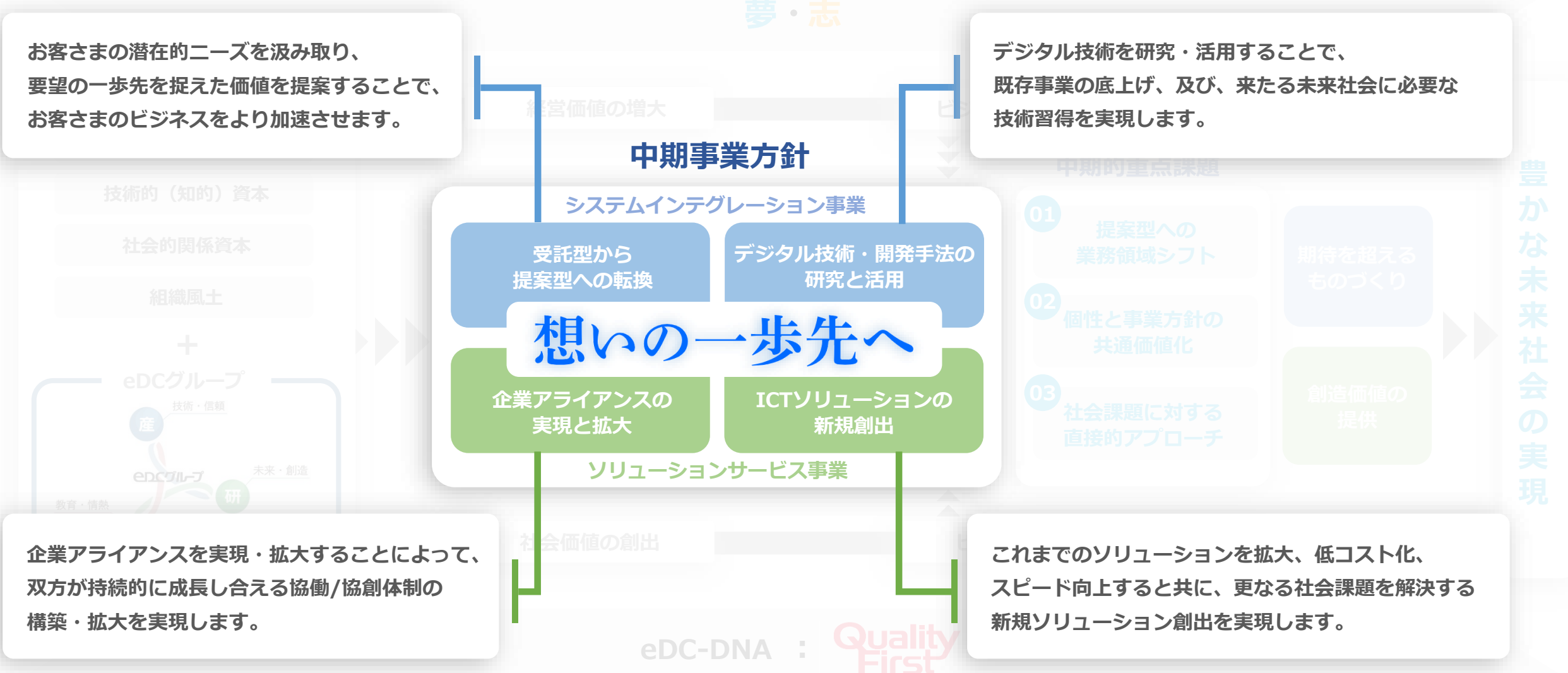
ビジネス環境ステークホルダー

- ・ 少子高齢化による労働(エンジニア)人口の減少
- ・ 社会インフラの老朽化、スマートシティ化
- ・ DXの潮流による多種多様な業界からのIT需要拡大

eDC-DNA : Quality First



「夢」「志」の達成に向けた価値創造モデル（中期事業方針）



「夢」「志」の達成に向けた価値創造モデル（中期的重点課題）

中期的重点課題

経営資源

中期事業方針

受託型から
提案型への転換

デジタル技術・開発手法の
研究と活用

企業アライアンスの
実現と拡大

ICTソリューションの
新規創出

01

提案型への業務領域シフト

システムインテグレーション事業において、受託型から提案型へと業務領域をシフトするにあたって、**提案型へシフトするためのリソース確保**、及び、技術的な集合知を形成することによる**平準化・高品質の安定化**を実現します。

02

個性と事業方針の共通価値化

事業方針に社員一人ひとりの行動特性といった観点を加えた育成を実施することで、**スペシャリスト人材の育成**、及び、**個人特性を踏まえた育成**を実現します。

03

社会課題に対する直接的アプローチ

既存領域や既成概念に囚われないチャレンジ精神の元、社会課題に対してより直接的なアプローチを行います。これまで接点の無かった業種/業態との企業アライアンスを実現し、共に歩み、共に栄えることができる**新たなビジネスモデルの創出**を実現します。

期待を超える
ものづくり

創造価値の
提供

豊かな未来社会の実現

- SCC Digital Transformation -

中期DX戦略

中期DX戦略における大方針

価値創造モデルの実現、中期的重点課題と設定した各項目に対して、デジタル技術活用方針や環境整備方針等を示したものが「中期DX戦略(※)」となります。中期DX戦略における大方針は以下の通りです。

SCCが培った技術/経験/知識を駆使することで

「プロジェクトマネジメント」に変革を起こし
誰もが安心、安全に仕事ができる効率化/平準化/高品質化

と

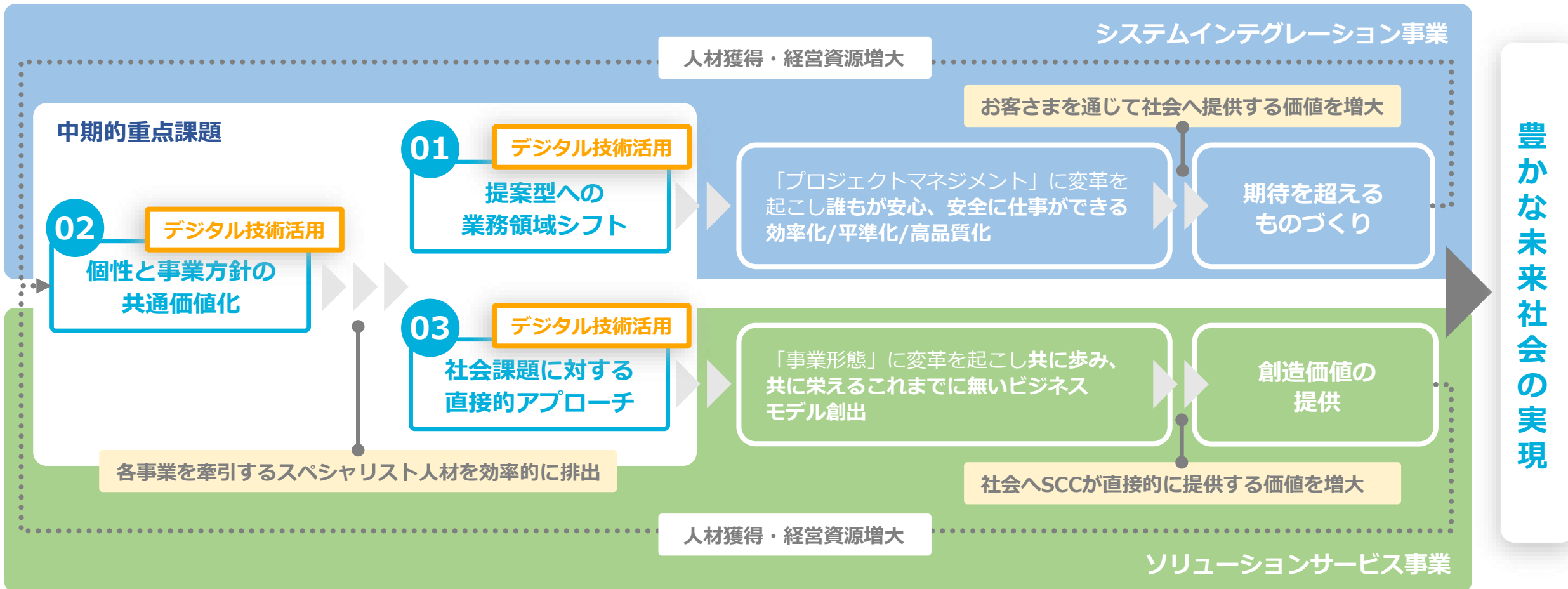
「事業形態」に変革を起こし
共に歩み、共に栄えるこれまでに無いビジネスモデル創出

を実現します

※中期的重点課題に対する戦略であることから、期間は2023～2025年を設定しております。

デジタル技術活用方針

価値創造モデルの実現に向けた、中期的重点課題に対するデジタル技術活用方針です。中期的重点課題に対して、デジタル技術活用を推進することで価値創造モデルの実現確度をより高めます。



重点施策

デジタル技術活用方針を元に、「中期DX戦略」における重点施策を以下の通り定めました。

中期的重点課題

01 提案型への業務領域シフト

提案型へシフトする
ためのリソース確保

平準化・高品質の安定化

02 個性と事業方針の共通価値化

スペシャリスト人材
の育成

個人特性を踏まえた育成

03 社会課題に対する直接的アプローチ

共に歩み、共に栄える
新たなビジネスモデル創出

デジタル技術活用施策

中期KGI:AI精度90%以上



プロジェクトマネジメント
支援AIシステムの構築

SCCで培ったプロジェクト情報を集合知としてデータベース化、AIシステムに連携することでAIが現状を評価・分析し、判断結果を応答します。プロジェクト・マネージャが実施する業務の一部をサポートする仕組みを構築します。

中期KGI:全事業部門への導入



人材開発支援スキームの構築

各部門の事業に必要な役割/スキルと、個々の社員が持つスキル/行動特性をリンクさせ、効果的なスペシャリスト育成、会社と個人の共通価値化を実現する社内コンサル&プラットフォームの仕組みをデジタル技術を活用して構築します。

中期KGI:アライアンス事業開始件数8件



企業アライアンスによる
コラボレーションビジネスの開始

SCCの持つデジタル技術の知識、経験を元に、デジタル化を望むアライアンス先とのレベニューシェア型(コラボレーション)ビジネスを開始することで、既存領域、既成概念に囚われないアライアンス先の獲得、及び、新規ビジネス創出を開始します。

環境整備方針

「中期DX戦略」の推進において、「支援・育成」「職場環境」「作業・セキュリティ」「組織風土」それぞれの観点にて環境整備を推進することで、事業基盤をさらに盤石化させるだけでなく、新たな価値創造を行う環境・文化を整備します。

支援・育成

- ・ 技術/開発手法の研究活用、知見の集約を担う組織の設置
- ・ 全社横断的な技術/マネジメント支援の推進
- ・ 培った知見、研究開発を元にした実践的な研修・育成の実施
- ・ Udemy活用による主体性を意識した教育支援

職場環境

- ・ 働き方の自由度、柔軟度を高めるABW型オフィスへのリニューアル
- ・ 全社コミュニケーションツール導入によるロケーションに依存しないコミュニケーションの実現
- ・ バーチャルオフィス活用によるリモート勤務推進

作業・セキュリティ

- ・ バックオフィス系サービスの導入によるペーパーレス推進、作業の効率化/省人化
- ・ セキュリティ強化に向けたゼロトラスト化推進

組織風土

- ・ ソリューションアイデア創出を目的とした社内イベントの企画、推進
- ・ 外部団体の活用による、新規事業を生み出し推進できる人材の育成
- ・ 資格インセンティブや社内公募制度の活性化による自律的なキャリア形成を後押しする仕組みづくり

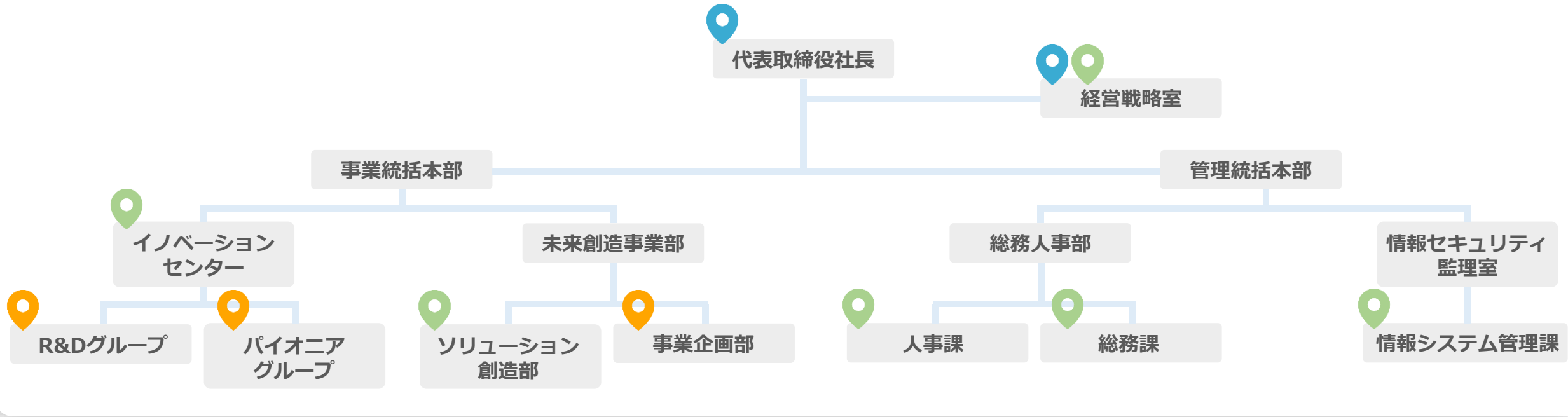
DX

推進体制

「中期DX戦略」のデジタル技術活用、及び、環境整備は以下の体制にて推進されます。

DX推進体制

※関係部門のみ抜粋



推進責任・全体管理

総括責任者：代表取締役社長

DX推進全体管理：経営戦略室

戦略推進

プロマネ支援AIシステム：R&Dグループ

人財開発支援スキーム：パイオニアグループ

コラボレーションビジネスの開始：事業企画部

環境整備

支援・育成：イノベーションセンター、人事課

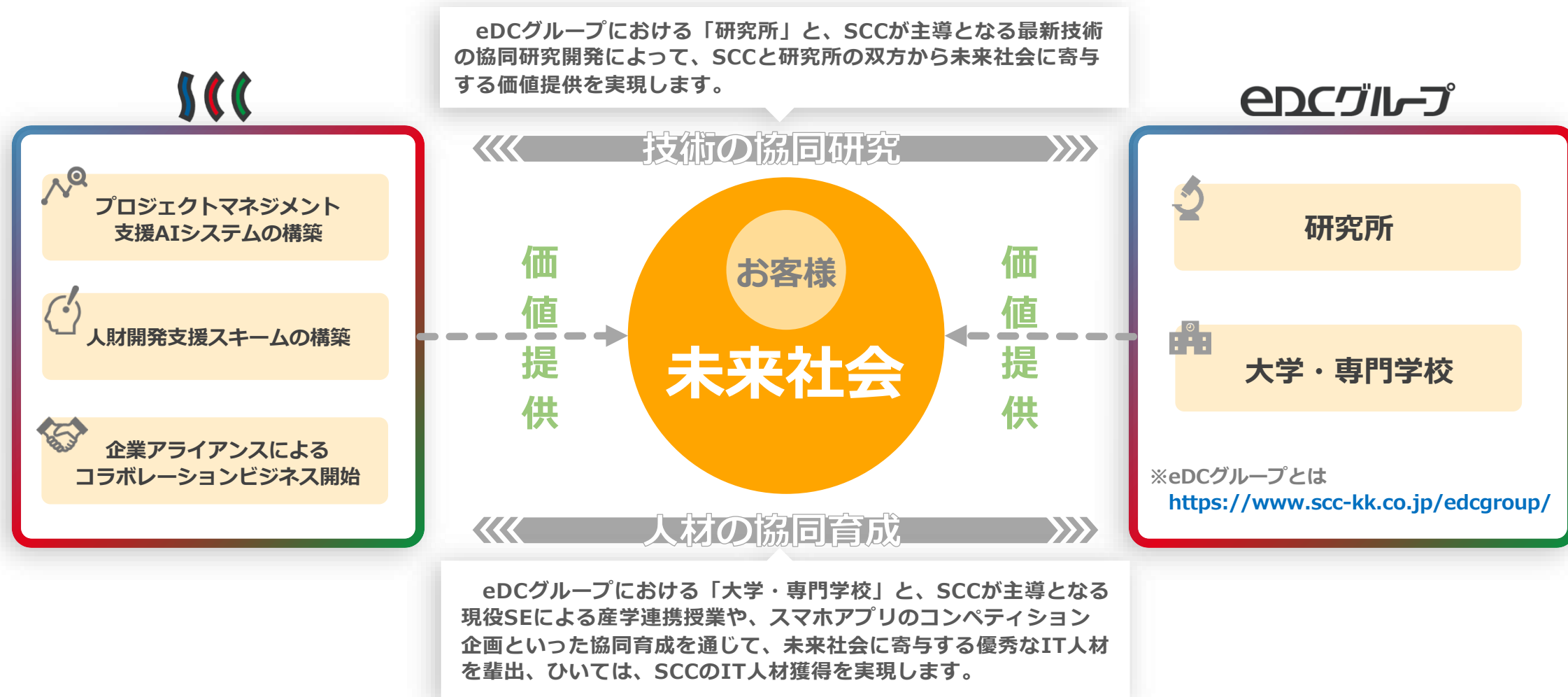
職場環境：総務課、情報システム管理課

作業・セキュリティ：情報システム管理課

組織風土：ソリューション創造部、経営戦略室、人事課

グループシナジー活用方針

中期DX戦略はSCC内にとどまらず、eDCグループ(※)の持つ「産・学・研」のシナジーを活用することによって、IT業界全体に影響し、未来社会を実現します。



推進状況の管理と発信

DX推進状況の管理

「中期DX戦略」はDX全体推進管理の役割を担う「経営戦略室」を中心に、各種取り組みや環境整備の推進状況の推進管理を行います。本資料に掲載されている取り組みや環境整備は、それぞれ担当する部門の事業計画に組み込まれていることから月次にて行われるマネジメント会議、及び、年次にて行われる事業計画の達成状況評価によって管理・フィードバックします。

DX推進状況の発信

「中期DX戦略」の推進状況、及び、社会の状況変化等を踏まえたSCCとしての方針は、半期に一度総括責任者から自社Webサイトを通じて発信を行います。発信内容は以下に掲載いたします。

DX推進状況 : <https://www.scc-kk.co.jp/dx/>

お問い合わせ先

株式会社エスシーシー 経営戦略室

TEL : 03-3319-4301

FAX : 03-3319-6999